



ブラジルでの事業

浦 添 宏

三菱電機は1975年からブラジルで事業を行っており、2009年頃から鉄道車両用の主電動機や制御装置を中心とする電機品をおよそ1500両の現地車両に納入しています。私は2016年4月～2019年の3年間、新規鉄道プロジェクトの開拓、納入機器の保守・予備品ビジネス立上げのためブラジル・サンパウロで駐在生活を送りました。

キーワード：南米、鉄道、政情・治安、海外生活の楽しみ、人生の達人

1. サンパウロの交通

サンパウロは東京に匹敵する大都会です。サンパウロ市だけで東京都と同じくらいの人口なので当然地下鉄があるのですが、5路線しかなくて総路線長も東京メトロ/都営地下鉄の4分の1くらいしかありません。郊外に伸びる近郊線6路線を含めても日常の交通手段としてまったく足りていないのが現状です。最もよく使われるのが街の南北を貫く1号線（通称：ブルーライン）とパウリスタ通りという目抜き通りの地下を走る2号線（通称：グリーンライン）ですが、これらの路線はラッシュ時はまず1回では乗れません。自動ゲートの数が少ないので駅のホームにたどり着くまでに行列ができてるのが日常風景で、やっとホームに着いても人が多すぎて2～3回乗り過ごさないと乗れないことがあります。

全体的に鉄道網が足りていないのでバスとの乗り継ぎで通勤する人が多く、バスはスリも痴漢も多いので日常の通勤移動だけでも外国人にとっては命懸けです。面白いのは、隣の駅に行くのも地下鉄・近郊線・バスを乗り継いで1時間通勤するのも同じ値段（4リアル=120円くらい）ということです。所得が少ない人ほど郊外に住むので日本のように距離に合わせて料金を上げていったら貧しい人は利用できないという切実な事情があり、採算度外視でそういう料金体系になっているようです。サンパウロ地下鉄や近郊線はもともとサンパウロ州政府が保有する公営の交通会社なのでこのようなことができたのですが、近年、税金の用途に関する国民の目が厳しくなり、世界的な鉄道民営化の流れもあるため、路線ごとに運行を民営化した

り路線建設からPPPにしたりしています。安易に運賃を上げたらデモが起こるので今後は日本のように駅ナカや主要駅周辺の開発など、交通運賃以外での収入源を確保する必要があるでしょう。

サンパウロでは車で通勤している人もいますが、サンパウロは世界に冠たる渋滞天国で2キロ進むのに30分かかったりするものがざらにあり、大気汚染などの環境問題もあるためやはり地下鉄・鉄道等の公共交通機関の改善が必要なのは論を待たないところです。新路線のプロジェクトもモノレールの数年前からあるのですが、一向に進んでいない状況です。

ブラジルでは近年まで政財界の贈収賄汚職が横行しており、2016年から司法省が一斉汚職摘発に動き出したので、汚職に関与している大手ゼネコンなどの資格停止処分などで新規の鉄道プロジェクトは軒並み凍結されてしまいました。2014年のFIFAワールドカップブラジル大会に間に合わせるために計画された空港線が開業したのは2018年の4月です。そしてこの空港線、微妙に空港ターミナルまで届いていないので、駅からわざわざバスに乗ってターミナルに行くので利用者としてはとっても不便だと思われま

2. ブラジルの政情と治安

BRICsという著しい経済発展を遂げる国と言われていた頃から15年以上経過し、ブラジルは2013年頃から深刻な不況が続いています。これはひとえに長く続いた左派のばらまき施策と経済政策の失政、そして先に挙げた汚職などが大きな要因ではありますが、2019年からボウソナーロさんという元軍人さんが新

大統領に就任し、彼の党は中道右派で経済発展を優先しているため、回復の途上にあります。しかしブラジルの治安の悪さは世界でもトップクラスで、毎日ニュースにならないほどの殺人事件が起きています。

リオやサンパウロのような大都市にはファベラと呼ばれる貧民街があって、そこに入ってしまうと身ぐるみはがされるのはましなほうで、麻薬取引の現場に巻き込まれて命を落とすこともあります。ブラジルでは一応、銃の保持は非合法となっていますが、銃保持が合法のアメリカで銃犯罪件数が年間1万件なのに対し、ブラジルは年間5万件起こっています。毎日のようにボリビアやパラグアイ経由で銃や麻薬が大量に輸入されてきており、一応警察も取締りをして時々道路わきに密輸トラックが警察に止められています。警察で押収できるのは流れ込んでくる全体の5%程度とのことです。

日本人を狙った犯罪も多く、私の同僚は車で信号待ちをしている間に銃を突きつけられてやはり持ち物をすべてもっていかれたそうです。犯罪に遭遇したときの心得は①ある程度の現金は常にもっておく②銃や刃物を突きつけられたら抵抗しないですぐに金も携帯も渡す③周りに助けを求めても無駄と覚悟するの3つです。特にiPhoneは闇マーケットで高値で取引されるのでおとなしく渡したほうがよいでしょう。犯罪が多い背景としては、ブラジルは貧富の差が大きく国民の10%が文盲で、生まれながらにして格差があり貧困層の絶対数が多いことがあります。そして警察と犯罪組織の元締めが癒着しており、現実的に犯罪が多すぎて刑務所の数が足りていないから一斉摘発できないという事情もあるようです。

3. 希望の国ブラジル

…と、暗い話ばかりでしたが、サンパウロの生活は非常に快適で楽しいです。何しろみんな明るい。ブラジル人は老若男女みんなサッカーが大好き。ブラジルではサッカーとは言わず、フチボウと言います。昨年、FIFAワールドカップロシア大会が行われましたが、ブラジルの試合がある日は銀行も連邦警察もみんな休みで、試合時間はほとんどの会社が休業してパブで観戦しています。もはや国民的イベントになっており老若男女、代表チームのユニフォームを着て国旗を振り回しています。しかしブラジルは準々決勝であっさりベルギーに敗退。今回は期待が大きかっただけに国民の落胆は大きく、この日は金曜日の夕方でしたが、いつもは馬鹿騒ぎの金曜夜のパウリスタ大通りが

お通夜みたいに静かでした。ブラジルは世界一のサッカー王国なのですがなぜか一発勝負に弱く、16年間優勝から遠ざかっています。期待が大きかっただけに批判も大きく、負けてからもテレビでは毎日、なんで負けたのかの検証、ネイマールは何回わざと転んだのかの確認が行われています。

ブラジル人は毎日毎日フチボウばかり見ててよく飽きないものだと思うのですが、ブラジルのスポーツはほぼ9割がたフチボウで、あとはバレーボールくらい。野球はやらないしゴルフもほとんどしません。その他で言うとサンパウロではランニング人口が割と多く、オールシーズン毎週のようにマラソンやロードレースの大会が行われています。サンパウロは基本的に暑いのですが、日本のように湿度が高くないし朝晩は気温が低くて夏でも20度以下なので、朝6時にスタートすれば暑くなる前にレース終了になります。参加費用も安くて管理もおおらかというか適当なので登録していない人も勝手に入って走っていいし、申し込んだ人が走れなくなっても代理のランナーに変更が可能です。ブラジルで一番人気のあるマラソン大会は毎年6月に行われるリオデジャネイロマラソン。スタートから20キロはずっと昇る朝日を見ながら海岸線を走るコースで、その開放感にずっと走り続けられる気になります(30キロあたりでそれが気のせいだったことに気付きますが)。南半球は季節が反対なので6月~8月が冬。2016年のリオ五輪も夏季オリンピックといっても現地では冬でした。逆に1月や2月の夏シーズンは、リオデジャネイロは40℃を超えるのでマラソンどころではなく、夏はコパカバーナカイパネマの海岸でビーチバレーをやっている人が多いです。

4. 豊かな食生活

ブラジルは食べ物が非常に美味しいです。代表的なブラジル料理はシュラスコという、牛肉のいろんな部位をかたまりで持ってきてお客さんの前で大きなナイフで削ぎ切るという豪快な料理です。これは基本食べ放題のシステムなのですが、毎回必ずと言っていいほど食べ過ぎてしまうので非常に危険です。このシュラスコ、もちろんレストランでも食べられますが、ブラジルの人たちはパーティが大好きなので毎週末どこかでシュラスコパーティをやっています。家にも集合住宅にもシュラスコ用のグリルがあるところが多く、パーティで人を集めてはバンドを呼んで演奏してもらったり、突然フットサルを始めたり、この国の人たちは本当に人生を楽しむ達人。

そのほかにも美味しい料理はたくさんあり、フェイジョアードという肉と黒豆を煮込んだブラジル北部の郷土料理は国民食と呼ばれています。この料理に限らずブラジルでは豆を本当によく食べるので、ブラジルの人が胸やお尻が大きいのは豆を食べるからだと言われています。私が大好きなのはポンデケージョという、朝食に食べるチーズを練りこんだモチモチのパン。たこ焼きくらいの一口サイズなので一度食べたら止めることができなくなってしまいます。

また、ブラジルの昼食のシステムが非常に変わっています。もちろん普通のレストランもあるのですが、街中に昼だけ開店しているポルキロというタイプのレストランがあります。ポルキロというのはPor Kilo、つまりキロ当たり、という意味でバイキングのようなたくさんの大皿料理が並んでいて、それが量り売りになっています。並んだ大皿から好きなものを自分の皿に取って、取った重さで料金が決まります。どう見てもどんぶり勘定なので、店の人に「昼しか営業しないので大量の料理が余ると思うけどそれどうすんの？」と聞いたところ、スタッフみんなで持って帰るんだよ、とのことでした。たくさんのポルキロが毎日営業できているのできっとこれでも利益は出ているのでしょう。本当にこのシステムで儲かるのか、日本に帰国したらブラジル総領事館のある五反田あたりで店をオープンして試してみたいと思います。

肉を大量に消費するブラジルではシュラスコも美味しいのですがステーキも非常に美味しい。最高級の分厚いステーキが日本の3分の1くらいの値段で食べられます。実はブラジルよりもアルゼンチンの牛肉のほうが美味しいため、アルゼンチンから牛肉とワインを大量に輸入しているようです。

このようにブラジルの朝食・昼食・夕食どれも美味しい上にたくさん食べるシステムが確立されており、味も濃いのでこの国で何も考えずにものを食べていたら確実に太ります。こんな食生活をしていると太るだけでなく早死にしてしまうので、サンパウロの日本人駐在員は日本の食材を使って普通に日本食を食べます。サンパウロは日本人街もあり日本の食べ物は世界のどの都市より手に入りやすい上に、さらに毎週決まった曜日に決まった場所でフェイラという朝市が立つのです。朝早くからトラックで食材とテントを運び込んで新鮮な肉、魚、野菜、果物を大量に販売しており、フェイラの魚屋では日本人向けに刺身でさばいてくれるのでほぼ毎週新鮮な刺身を食べることができます。そしてブラジルはフルーツが安くて美味しい。パイナップルはとて柔らかくて甘く、1個150円程度。

マンゴーも日本で買ったなら1000円くらいしそうな新鮮で大きなものが1個約100円。メロンもスイカもオールシーズンで食べることができます。そのほかにも和食、韓国料理のレストランのレベルが非常に高く、本格とんこつラーメンの店からすき屋の牛丼まであります。サンパウロで日本の食べ物が恋しくなったことは一度もなく、むしろ帰国したらブラジルでしか食べられない魚やフルーツ、ポンデケージョが恋しくなるのではないかと思います。

これだけ日本人が地球の裏側のブラジルで快適に生活できるのはひとえに日系移民のおかげで、今では日系ブラジル人が4世まであわせると150万人いると言われています。今年が日系移民110周年であり、毎年行われる日本祭り（フェスティバルドジャポン）では110周年記念式典が行われ、来賓で眞子様が来しました。

5. アモーレ（愛）

ブラジルは情熱の国だけあって、恋愛関係も自由奔放です。聞いたところによるとブラジルで恋人というのは2種類あって、フィカンチ（Ficante）というのはお試し期間中の恋人、とそしてナモラーダ（Namorada）というのが本当の恋人という意味です。そこには当然片方がフィカンチだと思ってももう片方がナモラーダだと思っているケースもあり、複数のフィカンチをかけもちするツワモノもいて、時々もめて忍傷沙汰になっています。ブラジルの男性は積極的な人が多く、年齢とか人種とか結婚しているとかあまり関係なく気に入ったらすぐ口説きます。

6. ブラジルの命、ビーチとサンバ

あと、ブラジルといえばビーチとサンバ。ブラジルは労働法で年に30日の休暇を取らなければならないことが決められており、休みになると大体みんなビーチに行きます。サンパウロから車で1時間半ほど走るとビーチリゾートがあるので夏の週末のビーチはすごく込み合っており、海に行く道路はものすごく渋滞します。ビーチで驚くのは水着。ブラジルの水着はすごい。男性用も女性用も布の部分がおそろしく少ないので最初は目のやり場に困ったのですが、そのうち慣れてなんとも思わなくなるから不思議なものです。ブラジルではお尻が大きいのがセクシーとされているのでお尻にシリコン注射をする人もいます。

サンバは毎年2月に有名なりオのカーニバルがあり

ますが、サンパウロや他の週でも同じ時期に行われます。サンバの衣装もやっぱり派手で、露出がすごく多い。。カーニバルの本番では出場者は深夜から朝まで踊りながらサンバ会場を練り歩いています。カーニバルの期間はどこの会社も休みで、夜通し踊っては酒を飲んで馬鹿騒ぎしています。ブラジルにはほとんど命を賭けているサンバチームがいくつもあって、優勝すると億単位の賞金がもらえるらしいのですが、衣装や御輿に同じくらいのお金がかかるので本当に好きでなければやれないのでしょうか。サンバが好きすぎてお金をためてはこの季節に2~3ヶ月リオで暮らして、カーニバルが終わったらまたお金を稼ぎに帰るという日本人のダンサーも結構いるそうです。サンバはブラジル各地で行われていますが、やはりメインはリオ。カーニバルには世界中から観光客が集まって花火が上がっ

て大盛り上がりです。そしてリオは観光地のそばに巨大ファベラ（貧民街）があるのでカーニバル観光しにリオに行く日本人はかなりの確率で強盗やスリに遭います。通勤も命懸けなら遊びも命懸けです。

7. おわりに

ブラジル三菱電機は私が担当していた鉄道事業のほかに、Factory Automation等の事業も行っています。皆様ブラジルにご来訪の際は是非三菱電機ブラジルにお越しいただきたくお願い致します。

J|C|M|A

[筆者紹介]
浦添 宏 (うらぞえ ひろし)
三菱電機

